



植えられた麦の畝が直線的で美しい（平成25年4月24日撮影）



秋に植えられた麦が大きく育ちました

大相撲の夏場所の番付が発表になりました。季節は春から夏に移りつつあります。八方原の農地も日を追うごとに濃い緑に覆われてきました。もうしばらくすると植えられた麦が収穫の時

を迎えます。

しっかり背の伸びた麦にはそれぞれ大きな穂が実りました。植え付けから施肥、消毒など稲作とは異なり、ずいぶん手がかかるようでした。収穫までもう少しですが、気は抜けません。刈取り直前までしっかりと管理する必要があります。冬から春にこれだけ成長する麦もすごいですね。

4月21日、八方原地区の敬老会が公民館で開催され40名近い人生のベテランズが集まりました。

この日はやはり日ごころの仕事や、役割を脇に置いて、食べて飲んでゆっくりとくつろぐ時間となりました。みなさん、おめでとございました。

地区敬老会が開催

いつまでもお元気で



ゆっくりと過ごされる参加の方々

4月14日、新年度の地区総会が開かれました。平成24年度の事業や収支の報告、新年度の事業案や予算案が提案通り承認されました。
新たに、スポーツ行事用のビブス（運動用のベスト）が購入されることが分かりました。運動会などでは既に、多くの地区が採用しています。
また、7班の公民館掃除とリサイクル活動について、新たな提案がありました。審議の結果、従来通りとなりました。

八方原区

新年度事業計画が承認

・・作業器具を配備しました・・

八方原の環境を守る会では、水路清掃などに多くの人が参加できるように、作業道具を購入しました。
今後は作業の際にはスコップや、鋤簾などが必要な時に提供しますので、自分の道具をお持ちでない方でも、手ぶらで参加いただけるようになります。
「きめ細やかな雑草対策」として刈刃も購入しました。関係者にお使いいただけます。うに、近々お届けいたします。

不動の谷に読経が響く



読経に聞き入る参拝者

4月14日、「お不動様」で親しまれてきた不動明王の春の例祭が行われました。昭和の初めに造られたものですが、数年前の水害で流されてしまっていたものを地元の有志などで元に戻して、年に一度のお祭りを行っています。お世話をされている原田温子さんは、「今年はお本山にも一緒に参加する計画があるので、興味のある方は問い合わせ」と話しておられました。

農業の進む道は

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる意見が巷でもにぎやかになってきました。

政府は農業について守るという立場ながら全産業的には参加するべきだという立場で交渉を進めてきました。いよいよ7月からは実際の交渉に入る段取りです。

耕作放棄地の解消を目指して新たな制度の導入や、農地の集約化の推進対策などを用意するようです。

全農は「日本の農業を守る」を前面に押し出し、様々な機会に安易な協定参加に反対の意見を明らかにしています。

産業界では推進すべきという意見が

多いですが、経済学者の中では意見は分かれています。米国主導のルールでは日本は押しつぶされるという意見と、これが将来の国際的な貿易ルールになるのだという意見です。

産業寄りの新聞記事では、いかに日本の農業が保護され、発展をさせてこなかったかを指摘する意見や、大成功を収めている農業法人の事例を挙げて、可能性を提示しています。

逆な立場では、成功例はごく希で参考にならない、むしろ一般的な農家経営に視点をおくべきだと強調する全国紙もありました。

当会の監査役の中村さんは本年に米国力フォルニアの稲作農家視察をしてきました。同氏は海外での農業経験もお持ちですが、その規模に圧倒されたと語ってくれました。

香竹庵だより⑤ れんげの思い出

庵主 神武正信



れんげの花ありがとうございました。れんげ畑を作られた方へ。たんぼのれんげの花を見ると、うれしくなります。小学校時代、学校帰り、ランドセルを放っぽりだして、

れんげ畑の花の絨毯に寝ころび、転げ回ったのでした。れんげの花を細い茎からつんで、その茎を小さくさいて、穴を作り、花を挿して、順に挿して輪っかを作り、花の冠として、女友達の頭にかぶせました。王女様の誕生です。少年時代を思い出させる八方原のたんぼのれんげ草。朝の散歩で、タケル（愛犬）と、れんげ畑に足を踏み入れ、楽しく、縦断しています。タケルもよろこんでれんげ畑の中を飛び跳ねてついてきます。我が家の畑にもれんげ草を一杯咲かせたいと思っています。ビバれんげ草！

巨大な発電パネル出現

再生可能なエネルギーとして太陽光発電が脚光を浴びています。電力会社の買い取り価格も高くなりまし

た。仁保津地区に大きな太陽光発電パネルが登場しました。



パネルは常に太陽の位置を追尾

た。